

情報メディア創成学類 / 知識情報・図書館学類



はじめに

こんにちは。この度は「かすがらいふ」を閲覧してくださりありがとうございます。

この「かすがらいふ」はその名の通り、筑波大学春日エリアから名付けられました。春日エリアを拠点とする学類は、情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類の2つのみです。どちらも素晴らしい学類ですが、本学と少し離れたこのエリアは情報が少なく、また学類の名前だけを見たら「どんなことをしているのかよく分からないな」と思う方もいるかもしれません。そこで説明会や本誌を、疑問解決、そして良さを感じるツールの一つとして活用していただければ幸いです。

本誌が受験生の皆様の大学選択、並びに大学進学のための努力の支えになることを願っております。

ぜひ楽しんで読んでください。



2020 年度 かすがらいふ編集委員

略称について

筑波大学では、各学類様々な略称が用いられています。春日エリアの2学類は

- ・情報メディア創成学類
：「メ創」、「創成」、「mast（マスト）」
- ・知識情報・図書館学類
：「知識」、「図情」、「klis（ケーリス）」

と略されます。

（＊ちなみに mast は Media Arts, Science and Technology、klis は Knowledge and Library Sciences から取られています。）

本誌内でもこれらの略称が用いられている箇所が多々あります。ご了承ください。

目次

ページ番号をクリック / タップすると
該当ページへジャンプします。

＊お使いの環境によっては上の機能が動作しない場合がございます。
お持ちの方は Adobe Acrobat での閲覧を推奨致します。

| | |
|-----------------|---------|
| はじめに | p.1 |
| 1. 学類紹介 | |
| 情報メディア創成学類 | p.3 |
| 知識情報・図書館学類 | p.4 |
| 2. 授業紹介 | p.5~6 |
| 3. 主専攻紹介 | |
| 知識科学主専攻 | p.7 |
| 知識情報システム主専攻 | p.8 |
| 情報資源経営主専攻 | p.9 |
| 4. 合格体験記 | |
| ～ mast 編～ | |
| 前期試験 | p.10 |
| 推薦試験 | p.11 |
| AC 入試 | p.12 |
| ～ klis 編～ | |
| 後期試験 | p.13 |
| 推薦試験 | p.14 |
| AC 入試 | p.15 |
| 5. 生活体験記 | |
| 春日学生宿舍 | p.16 |
| アパート | p.17 |
| 自宅通学 | p.18 |
| Global Village | p.19 |
| 6. 新歓体験記 | p.20 |
| 7. 用語集 | p.21~23 |
| 筑波大学キャンパスマップ | p.24 |
| 春日エリアマップ | p.25 |

1. 学類紹介

情報メディア創成学類 学類長 河辺 徹

これを読んでいる皆さんの一番大きな関心事は、「情報メディア創成学類ってどんな学類？」ということだと思います。その答えとしては「学生が元気！」ということがあります。知識情報・図書館学類生との共同制作であるこの“かすがらいふ”や学類独自の Web マガジン“MAST (<https://magazine.mast.tsukuba.ac.jp/>)”の発行、映画・アニメーション・Web など映像に関する実習や研究を行う空間であるクリエイティブメディアラボ（通称：クリラボ）の自主管理などの活動がその例です。他にも、各種アプリや映像の自主的制作とそれらの国内外のコンテストへの応募、卒業研究等の成果の国内／国際会議での発表などを積極的に行っており、学類としてもこういった活動をバックアップしています。（毎年、受賞・表彰：約 10 件、学会発表：約 20 件）

このように学生がとても元気な本学類は、2007 年（平成 19 年）4 月に発足した比較的新しい学類です。2011 年（平成 23 年）3 月の最初の卒業生以降、昨年 3 月に第十期生を送り出したところです。（これまでの卒業生は約 530 名）ただ、ご存知の通り、新型コロナウイルスの影響で、学類として節目となる第十期生の卒業式が行えず、また、「令和」最初となる第十四期生の入学式も行えなかったことは大変残念に思っています。今年度のオープンキャンパスもオンラインでの実施となり、この“かすがらいふ”も電子版のみとなってしまったことも併せて残念ですが、この逆境をばねに、学類生たちは、これまでにない新たなチャレンジをしてくれるものと期待もしています。

さて、「情報メディア創成学類」という学類名称について、ご紹介したいと思います。そもそも「情報」、「メディア」、「創成」ってそれぞれどういう意味なのでしょう？

それぞれいろんな解釈がありますが、まず「情報」とは、“ある場所から他の場所に伝えられる意味のある全ての信号の内容”です。この場合、「情報」は『伝達』・『通信』からは切り離せないものになります。

次に「メディア」は、“情報の発信から受信までに関わった全てのもの”です。つまり、情報伝達を媒介する、“物体”、“装置”、“技術”、“システム”などあらゆるものが含まれます。なお、「メディア」から発信される情報の内容が“コンテンツ”です。

そして「創成」ですが、“最初に具体的な形を作り出すこと”です。（“創生”（初めて生み出すこと）や“創世”（世界の初め）とは漢字も意味内容も違いますので要注意）

本学類が歩んできたこの十数年は、情報やメディアに関する技術やサービスを社会全体が創成してきたといえ、学類カリキュラムの柱である 2 つの分野、コンテンツテクノロジーとネットワークメディアテクノロジーにおける、高度で新しい技術やサービスの提供が必須となった時代ともいえます。「情報メディア創成」という名称には、このような歴史的／社会的背景を踏まえ、次世代の新しいメディアやコンテンツに関する様々な情報技術や理論、システムなどを創り出していく人材を養成する学類にしたいという願いが、それぞれの言葉とともにこめられています。それゆえ、実社会で役立つシステムやコンテンツを自ら創造／設計できる才能の養成を重視しており、その成果が最初に述べた「学生の自主的活動の機運の高さや成果」にも結び付いているのだと思います。

学類のアイデンティティを最も現しているのは学生です。例えばこの「かすがらいふ」にも作った学生達の思いや個性などがにじみ出ているので、ぜひそういったことも感じてもらえればと思います。

我々と共に、学び、考え、悩んで切磋琢磨し、コロナ後の新しい社会を創造し貢献する人材にならんとする、夢と希望と意欲に溢れる皆さんの参加を心よりお待ちしております。

今年（2020年）は新型コロナウイルス感染症の流行とその対策のため、例年とは違った形で大学説明会を行うことになりました。知識情報・図書館学類の大学説明会は、教員ではなく学類生が後輩のために企画運営するという伝統があり、今年の実施委員が、昨年までと勝手が違う環境の下でも、着々と準備を進めてくれています。この「かすがらいふ」は、毎年、夏（大学説明会）と春（入学）の2回、情報メディア創成学類の学生と協力し、学生だけで企画・出版しているものです。知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の学生たちによる、この種の活動の活発さは、筑波大学内でも一二を争うものではないかと思っています。実は、大学生説明会で一番見ていただきたいのは、説明会のあちこちで見え隠れする「学類生」です。後輩のために活躍している学類生の姿に、知識情報・図書館学類に入学して充実した大学生活を送る自分自身を重ねてみてください。

新型コロナウイルスによる「新しい生活様式」が、否応なく私たちの日常生活を変えていくありさまを、みなさんは目の当たりにしてきました。オンラインで行われる授業やリモートワークはその代表的なものです。ここで、みなさんに考えていただきたいことは、オンライン授業やリモートワークに使われたソフトウェアやハードウェアは、そのずっと以前から私たちの目の前にあったものであり、単に使っていなかった（使いこなしていなかった）ものでしかないことです。スマートフォンやPCは、ソフトウェアを追加することで、オンライン授業やビデオ会議の道具に変わり、私たちはいつの間にかそれを使いこなしています。私たちの日常に入り込んでいる情報技術には、私たちが気づいていない大きな潜在的能力と可能性があること、そして社会の仕組みが少し変わることでその可能性が一気に顕在化することを私たちは体験し、知ったのではないのでしょうか。

情報学群の各学類では、情報技術に関する専門知識を学ぶことができます。知識情報・図書館学類は、その中でも技術的側面だけでなく、社会的側面・人間的側面を併せて学ぶことができる点が特長です。社会学や法学、心理学、文化人類学、哲学などの多様な視点と機械学習やAI、クラウドなどの最新の技術を兼ね備えた、視野が広く柔軟な発想ができる専門家を育てることを目標としています。しかし、そのような学びは大学での4年間で完成するものではありません。そのため、学類のカリキュラムの設計では、文理にまたがる基礎をしっかりと身につけることを通じて、生涯にわたって新しい知識を学び続けることができる人材養成を目指しています。

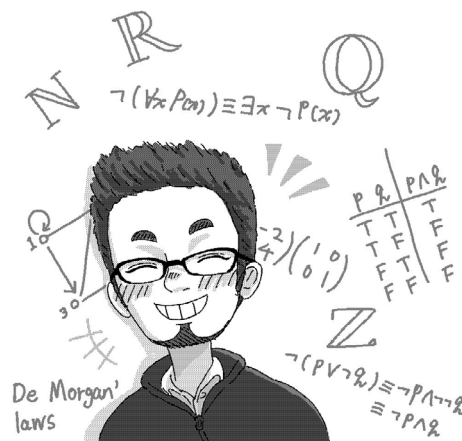
筑波大学では2021年度入試から総合選抜方式が導入されます。総合選抜で入学した学生は、自身の興味に応じて幅広く学び、その中で自分が学びたい専門分野を選び取ることができます。このような学び方は、知識情報・図書館学類の教育課程の組み立てと重なる部分が多くあります。そこで、知識情報・図書館学類は1学年100名の定員のうち45名を総合選抜に割り当て、前期日程の学類別選抜を廃止しました。知識情報・図書館学類を意識しながらも、情報学群の他学類とどちらが良いかを迷っている人、あるいは他学群との選択で迷っている人は、総合選抜を受験し、1年間幅広く学んだ後で、知識情報・図書館学類を選択するという方法があります。知識情報・図書館学類への志望を固めている人はAC入試や推薦入試への出願をお奨めしています。我々は、色々な事に興味がある人、幅広く欲張りに学びたい人を求めています。3年次編入を含め、多様な経験・背景を持つ学生が混じり合った活気のある学類でありたいと考えています。

2. 授業紹介

ここでは情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類の生徒の多くが履修している授業を紹介します！

・情報数学

情報学の世界は、実は、数学と非常に深い関係を持っています。プログラミングや人工知能など、これらの研究を行うには、数学の知識が必要不可欠です。この授業では、情報学と密接に関わり合っている数学の単元、主に高校で習った集合と命題を応用させたもの、写像、行列とベクトルなどについて学びます。



・知識情報概論

人々は、昔から伝わる情報、新たに流れてきた情報をキャッチするだけでなく、その情報を後世に伝えるという役割も果たしてきました。情報を伝えるためには、「記録」をすることが大切になってきます。この授業では、情報を伝達すること、記録をすることについて、昔の人々の考えをもとに学んでいきます。



・知識情報システム概説

この授業では、Webの世界を細部から広域にかけて学んでいきます。今や Google や Yahoo を用いると知りたいことを容易に、短時間で知ることができるようになりました。世界中にある情報がなぜこんなにも手軽に手に入るのか、情報と情報がどのようにつながり合っているのか、検索してでてきたサイトはどのような規則に従って並んでいるのかなど、みなさんが一度は疑問に思ったことのある Web の仕組みについての基礎をこの授業で学ぶことができます。

・情報メディア入門

この授業は春学期に開講されており、A、B、C のモジュールにあわせて、情報メディア入門 A、情報メディア入門 B、情報メディア入門 C という風に時間割が設定されています。授業で取り扱う内容については、授業名の通り、情報メディアの基礎を取り扱います。画像処理や音、複雑ネットワークなど、身の回りの身近な現象について、情報学の観点から学びます。

・プログラミング入門

「プログラミングの有用性と必要性を理解し、単純な処理を行うプログラムを自力で書いて、実行できるようになることを目指す。」授業です。今までプログラミングをしたことがない人、少しだけしか触ったことがない人も簡単な処理を行うプログラムを作成できるようになることが目標です。学習する言語は Python で、習得することによって、web サービス、Web アプリケーションが作れたり、自動でデータ収集や分析を行うことができたり、機械学習、ディープラーニングや最適化を行うこともできます。

・コンテンツ応用論

現在、落合陽一先生が担当されている授業です。春日講堂にて受講できます。第一線でご活躍されているクリエイター、プロデューサー、エンジニアなど、多種多様なゲストの方々が学外から講師として来て、最先端の創作活動やビジネスの動向等を議論していただきます。毎回違った講師の方が授業してくださる、オムニバス形式です。また、この講義の大きな特徴は Twitter でハッシュタグをつけて講義に関連した内容、感想などを 30 ツイートすることでその回の出席・評価となることです。抽選式の授業ですが、mast が優先して授業を受けられるようになっています。現場の「生」の声が聞ける良いチャンスです。



・図書館概論

図書館とは何かについて学びます。具体的には、図書館の歴史と現状、機能や社会的意義、課題や今後のあり方などを幅広く学ぶことができます。また、先生が世界各地の図書館を紹介してくれるため、日本と諸外国の共通点・相違点についても学ぶことができます。

klls には図書館や図書館司書に興味がある人が多いです。またこの授業は司書資格に関する必修科目です。そのため、図書館や図書館司書に興味がある人には、言わずもがなおすすめ授業です。しかしそれだけに止まりません。図書館にあまり興味のない人にもぜひ受講してほしい授業です。なぜなら、普段使っている図書館についての役割や活動の豊かさを知ることができ、図書館を利用するときや将来社会に出たとき、子供ができたときなどに役に立つと思うからです。

筑波大学に入学したら、ぜひ受講を検討してみてください。

3. 主専攻紹介

klis では3年次に3つの主専攻に分かれて、その専攻について専門的に学びます。(mast についてはいくつかの主専攻に分かれるということはありません。) 3つの主専攻とは、「知識科学主専攻」「知識情報システム主専攻」「情報資源経営主専攻」です。ここでは klis の3つの主専攻について詳しく紹介していきます。

・知識科学主専攻

主専攻紹介

「人間」に注目し研究する専攻です。「人間」の思考や行動を考える哲学・社会学的な文系よりのものから、「人間」が産み落としたデータを様々な手法で分析・解析して知識を抽出する理系的なものまで、その学問分野は多岐に渡ります。この学問分野の広大さから、この専攻の研究対象を具体的に捉えることが難しいかもしれません。それは逆に「なんでもあり」の専攻であるということもできます。つまり、あなたが研究したいと思ったこと、突き詰めて考えたいと思ったことにしっかりと向き合うことができる主専攻なのです。

専門科目紹介

ここでは知識科学主専攻の専門科目について、その一部を簡単に紹介します。

○知識科学実習

知識科学主専攻の先生方がオムニバス形式で講義を行う授業です。実践型の講義が多いため、クリティカルシンキングなど卒業後、就職した際にも役に立つ力を身につけることができます。

○知識論

知識とは何か、について哲学の観点から学ぶ授業です。哲学における「知識」の歴史的な捉え方、「知識」についての現代の多様な考え方など、「知識」への様々な認識の仕方を学ぶことができます。

○情報検索システム

Google に代表される情報検索システムの仕組みについて学ぶ授業です。私たちの身近に存在する情報検索システムについて、その基本原理から応用事例までしっかりと学ぶことができます。



・知識情報システム主専攻

主専攻紹介

「情報技術」に注目し研究する専攻です。様々な情報システムについて研究することができます。情報システムとは、電子図書館やOPACなどインターネットで普段利用するようなサービスから、アーカイブズの保存などドキュメントの領域まで広がる概念です。そんな情報システムを研究するために、プログラミングの演習が充実していたり、電子図書館やデジタルライブラリについて学んだりします。情報システムやプログラミングに興味がある人はもちろん、アーカイブズや知識資源に興味があるけどプログラミングが苦手だったり、文系で情報技術系の分野にあまり自信がなかったりする人も選択する専攻となっています。

専門科目紹介

ここでは知識情報システム主専攻の専門科目について、その一部を簡単に紹介します。

○知識情報システム実習

実践形式の講義であり、グループワークでデータベースを用いたシステムを実際に構築します。個人の興味にあった実習ができ、テーマによっては実習の目標を自分で設定することもできます。

○Web プログラミング

Web の基本原理からサーバ側のプログラミングの基本原理と現実、セキュリティ問題などについて学びます。Web の機構を用いて情報提供できるようなプログラミングを作成する実習が含まれており、プログラミング課題のレポートが2 回程度出題されます。

○デジタルドキュメント

デジタルドキュメントについて、学術研究分野や電子出版、電子書籍におけるその作成と管理、発信の実例を見ながらその機能について学びます。デジタルドキュメントとは、ハイパーテキスト（他の文書へのリンクを含んだ文書）、Web を介した発信、多人数による共同編集等の概念を含んだ、新しい情報メディアです。インターネット上にあるたくさんの文書群がどのようなものかについて、さらに深く学ぶことができます。



・情報資源経営主専攻

主専攻紹介

「社会」や「情報資源」に注目し研究を行う専攻です。数年前までは「情報経営・図書館主専攻」という名称でした。この名前からも分かるように、3つある主専攻のうち最も図書館に関わっている専攻です。しかし、図書館についてのみ学ぶというわけではありません。情報や資源を「社会」という面に注目して見ていきます。具体的には、あふれかえるほどの情報や資源を存分に活用できるような環境づくりについて学びます。そのため、図書館に関わることについて学びたい人はもちろん、今日の情報社会に関わる法制度について考えたい人、情報の側面から社会や教育について考えたい人なども選択する専攻です。

専門科目紹介

ここでは情報資源経営主専攻の専門科目について、その一部を簡単に紹介します。

○情報資源経営実習

図書館情報学という研究領域の全体像を理解していくために、学術文献のリーディングやプレゼンテーション、グループ研究などを行っていく授業です。

○図書館論

図書館について、読書・読者との関係、国際比較、近現代など様々な角度から学びます。また、これらを通して文化的・社会的環境において、図書館を理解するために役立つ基本的な概念や研究などを紹介してくれます。

○情報サービス経営論

図書館サービスの考え方とその構築について学びます。また、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種サービス、著作権、コミュニケーションなどの基本について学ぶこともできます。

○アーカイブズの構築

アーカイブズ資料(古文書や公文書などの記録資料)や国内の古文書館・公文書館といったアーカイブ施設について、その意義や機能、歴史と現在について学びます。この授業では大震災とアーカイブズをめぐる問題について重視しており、これに基づいた授業が展開されます。

klis の各主専攻について、もっと詳しく知りたい方は、知識情報・図書館学類の教員紹介を見て、どんな分野の研究をしている先生がどの主専攻にいるのかを確認し、そのイメージを掴んでみてください！

知識情報・図書館学類 教員紹介→ <https://klis.tsukuba.ac.jp/faculty.html>

4. 合格体験記

合格した先輩方の、受験期のお話です。必見ですよ～！

＊今年度から受験方式が変わり、mast の後期試験と klis の前期試験が無くなります。

そのため本誌では mast の前期、推薦、AC 入試、klis の後期、推薦、AC 入試の合格体験記を掲載しています。

～ mast 編～

前期試験

志望理由

私は、CG やプログラミングなどを学べる学部に行きたいと思っていたこと、パンフレットを見て心から「楽しそう、学びたい」と思えたことから、この情報メディア創成学類を志望しました。

センター試験

センターは最低目標 8 割で臨みました。今年からの入試はわかりませんが、今まで mast はセンター試験 900 点、二次試験 800 点と、センター試験のほうがより配点が高かったです。最初に点をとっておくと二次がかなり楽になります。

「もうセンターじゃないから…」と読み飛ばしてしまう方もいるかもしれませんが、私がここで話したいことは、配点の話より、最後まで目標を諦めないで、ということです。私はセンター試験直前の最後の模試が 700 点ギリギリで、本番 8 割に届かないのではないかと諦めそうになりました。しかし、その模試の復習をしっかりと、最後の詰めを行ったら、本番で 40 点以上点数が上がりました。1 月のこの試験前の時期が精神的に一番きついと思いますが、頑張って耐えてください。

二次試験

まず数学・英語ともに言えるのは、闇雲にいろんな参考書や問題集に手を出すのではなく、「一冊を完璧に」の精神が大事だということです。隣の芝は青く見えますが、「友達が使っているから」とあれもこれもやるのは本当におすすしめしません。過去問の前に、数学は網羅系の参考書を何回も解くこと、英語は文法・語法の基礎を固めること、単語の反復、そして長文をたくさん読むことがベースになると思います。基礎を大事にしてください。

mast の数学は、数Ⅱ B から 2 問、数Ⅲから 3 問、計 5 問構成です。誘導にのれば解ける問題が多く出題されます。過去問はその誘導を意識して解くと良いと思います。英語は、長文 2 問、文法・英作文で大問一個の計 3 問構成です。英作文は、文法や単語力だけでなく文章構成の技術も必要です。過去問・テキストなどを解いたら、必ず学校の先生に添削してもらうことをお勧めします。

過去問はどれくらい解けばいいの？という疑問も生じると思います。結論は、第一志望の過去問は手に入るだけやるのがいいよ、です。実は、私はセンター試験後に急遽志望を筑波大学に変更したので、過去問をやり始めたのがかなり遅く、また私立大学もいくつか併願していたため、なかなか大変でした。それでも英語は 4 年分、英作文はさらに 2 年分、数学は 20 年分近く解きました（絶対出ない問題は飛ばしましたが）。これだけやれば自信がきます。英語長文に関しては、併願する私立の過去問の長文を読むことも役に立ちました。

どれだけ対策しても本番はどうしても緊張します。普段しないようなケアレスミスをしたり、簡単な英単語が読めなくなったりします（経験談）。ただミスをしてでも部分点は入るし、意外となんとかなるものです。過度に恐れることなく頑張ってください。

この文章が誰かの役に立てば幸いです。健闘を祈っています。

推薦試験

・なぜ推薦を受けたのか？ (Why)

自分が高校生の時からプログラミングに興味があり多少触れていたため、他の高校生よりもアドバンテージがあるのではと思い、それを活かせる入試にもトライしたいと考えたからです。

でも自分そんなアドバンテージないし・・・と思ったそこのあなた、考えてみてください。少し勉強のベクトルは変わってしまうにせよ、前期後期だけだった受験のチャンスを、浪人せずに増やすことができ、あわよくばクリスマス前に大学を決め、バイトをしたり遊んだりすることができるアドバンテージは絶大。出願要件も成績 100%で見られるわけではなく、工夫次第で誰でもチャンスを得ることができます。

ぜひ入試要項を読み込んで、自分に増やせるチャンスがないかどうか、もう一度確かめてみてください！

・どのような問題で、どのような対策をしたのか (How)

試験の内容は小論文と面接です。

mast の小論文の形式は、ざっくり言うと数学的パズルの話を英語でされる部分と、論理的な論述の部分のふたつに別れています。

まず数学ですが、微分の定義だったり、黄金比についての英文が出ます。これを聞いて胸焼けがしそうな人も居ると思いますが諦めるのはまだ早いです。難しい数学的な用語だったりちょっと難しい語彙に関してはちゃんと日本語訳がついており、そこからおおよその内容は把握できます。また、自分がガッツリと英作をやるといった問題もほぼありませんでした。

後半の論理的な論述は打って変わってすべて日本語です。自分の年は「因果関係と相関関係」に関する論述でした。論述といっても何百字、何千字の小論文を課されるわけではなく、新聞にたまに載っている論理パズルを少し難しく言い換えたような感じのものが出ます。パズルが好きな人とかちょっと触れたことがある人なら難なく解けると思います。

対策ですが、普通の受験問題という感じではないので多少慣れが必要です。過去問が赤本になっているので、高校の進路室や書店でさがしてみましょう。

一つ注意点として、推薦の問題の赤本は前年度の問題が最新の赤本でも出ていません。前年度の問題をもらいたい場合には、去年推薦を受けた先輩にもらう以外の手段がないので頑張ってください。

後期試験の問題も実は形式が同じなので、慣れてきたら腕試しに解くのもいいでしょう。(ただ、かなり難易度が高いので心が折れない程度にしましょう)

また、時間が問題に対してあまり長くないので、終わらせる感覚をつけるために時間を本番同様に計測して過去問を解きましょう。

次に面接の形式です。時間はひとりおよそ 15 分で、うち 5 分程度は口頭試問という、数学の問題をホワイトボードで解くように言われる試験があります。

問題の難易度は高くなく、またパターンも選べるため難しくはないですがなにしろ緊張しています。人間緊張しているとミスをするのは仕方がないので、数字を間違えてしまっても大まかな解き方の流れは外さないようにしましょう。自分は高校の数学の先生に対策してもらっていました。

残りの時間は一般的な面接で、志望動機や興味のある学問分野、研究室などを聞かれます。ここで喋れば喋れるほどアドバンテージなので、事前に学校説明会やオープンキャンパス、学校の HP などで情報収集を行っていくとかなり好印象だと思います。

AC 入試

AC 試験の特徴

AC 入試はとても自由な入試です。このことは 1 次試験が自由記述の書類で 2 次選考が面接ということからも分かると思います。推薦入試とも違い、ペーパー試験也没有ありません。しかしこのことは「楽しんで」入学できるということを意味しません。AC 入試では一般入試や推薦入試と違う能力が求められるのです。その能力とは「自分で問題を設定して、その問題を分析し、解決に当たる能動的な能力」です。つまりこれまでに「何かやってきたことがある人」にオススメの入試であると言えます。その「やってきたこと」に関係した受賞経験やコンクールへの出場経験は必ずしも必要ではありません。AC 入試はあなたが何を感じて、何をしたかの過程を重視する入試であると私は考えています。

1 次選考

1 次選考は書類選考です。800 字以内の志望理由書と自由形式の自己推薦書です。この 2 つの内、皆さんが気になっているのは自己推薦書だと思います。「何を書けばいいのか？」そう思う方が多いと思います。私もそうでした。答えは簡単です。あなたが思うがままに書けばいいのです。書いた内容で咎められることはありません。AC 入試の性質上、少々形式の違いで合否が決まるというものでもありません。あなたが良いと思ったものを書いて、あなたがやってきたことを筑波大学にアピールすれば良いのです。

大体は 1 次試験で落とされます。気合を入れて挑みましょう！

2 次選考対策

2 次選考は面接です。私は選考当日までは自己推薦書や自分で作った想定問答を読み直していました。面接ではまず自己推薦書の要約を 5 分で述べるのが課されるのでその練習はしておきましょう。選考当日は緊張していましたが面接が始まったと同時に緊張が解けました。その理由は面接官の先生方の雰囲気がとてもアットホームだったからです。「面接」というと圧迫面接のようなものを想定してしまう人もいますが AC 入試の面接はもっとアットホームなものだと思ってもらえば良いです。

ここまできたら合格まであと 1 歩、頑張ってください！

最後に

今年は新型コロナウイルスの影響で得られるはずの情報も得られずに心配だと思います。しかし AC 入試に関しての先輩方の合格体験記は意外とインターネットや Twitter で見られたりします（ちなみに私も最近、ブログでその記事を書きました。気になる方は「情報メディア創成 AC 入試」で検索。個人的に相談に乗ります）

こういった情報を生かしてコロナウイルスに負けずに合格を勝ち取りましょう！

この記事を読んだあなたが後輩になる日を楽しみにしています。

（ブログのタイトル：Yataro の記録）

後期試験

私は後期で合格したが、後期で受かったということは、前期で落ちたということだ。実際のところ、私立のセンター利用を出願ミスで合格を逃し、私立一般も全落し、国立前期も見事に落ちた。清々しいくらいに全て落ちた。不合格通知が来るたびに気を落としながら、それでも前期試験が終わる頃には勉強を再開していた。小論文の構成、書き方を付け焼刃で学び、練習を重ね、本番で文章を形にし、どうにかこうにか後期に引っかかることができたわけだ。

受験期は勉強ばかりで、そのプレッシャーも相まって、ストレスが溜まるとよく言われている。私は正直なところ、2月の終わりまであまりストレスがなかった。120%の力で勉強に取り組んでいなかった気がする。一番心が病んでいたのは間違いなく後期の勉強をしていたころだろう。すなわち、その時だけは本気も本気で取り組んでいたわけだ。その力をもっと前から使っていれば、もっと楽な大学受験になったかもしれない。昔からギリギリの状況にならないとやる気にならない性分だ。どうにか直したいのだが、オンライン授業の課題をため込んでいる現状を考えると、結局三つ子の魂百までなのだろう。新入生の皆さんは、私を反面教師にして、ぜひ計画的な行動を起こしてほしい。(それができたら苦労しないのだが……)

私は後期試験で知識情報・図書館学類に入学しました。勉強方法などについては、他の皆さんが話してくれるとおもうので、私からはなぜこの学類にいるのかという経緯を説明したいと思います。私が受験勉強を始めたのは二年生の秋からで、そこからずっと第一志望は筑波大学の社会学類でした。しかし、前期の受験は不合格となってしまう、後期に受けたこの学類に合格し、入学しました。私は文系でしたが、数学が得意だったため文理混合で情報系の技術もつけることができることに魅力を感じ、また後期の入試が小論文しかないこともあり、受験を決めました。他にも、「筑波」という環境に惹かれ、ここで大学生活を送りたいと強く思ったことも理由の一つです。私は公募推薦で社会学類をうけており、小論文は対策済みでした。さらに、センターの点数も比較的高かったので比較的余裕を持って取り組むことができました。受験が近づいていくなか、事前に発表される倍率が5.7倍で不安になっていましたが、当日実際に会場に行ってみると異常に受験者が少なかったことを覚えています。のちにわかったことですが、受験者は31人で実質倍率は1.6倍。これは合格した！と確信した私は全力で思いの丈を小論文の解答用紙に書き込み、現在筑波大学に通っています。第一志望には合格できませんでしたが、学ぶ内容はとても楽しく、毎日とても充実しています。皆さんも、一つの型に捉われない柔軟な視点から志望校を選んで見てください。

推薦試験

klis の推薦入試では小論文（日本語、英語の2題）とビブリオバトルによる面接の2つの試験が行われます。klis は推薦入試でたくさんの学生を募集します。チャンスを広げるという意味でも推薦入試を受けてみてはいかがでしょうか。

受験のきっかけ

私は高校1年の時から、どこかの大学の推薦入試を受けようと考えていました。そして高校2年の夏に筑波大学のこの学部を見つけ、目指すことにしました。推薦入試に全てをかけるのではなく、合格するためのチャンスを増やすことを目的として推薦入試を受けました。そのため、前期・後期の受験勉強と並行して推薦入試の勉強をしていました。

入試当日

私は地方に住んでいるため、前日に筑波に入り、1泊して受験を受けました。受験当日の朝の電車は混むので、かなり早めの時間設定をした方が良いと思います。電車の中では勉強などはせず、漫画を読んだりしてリラックスするように努めました。

試験は小論文、ビブリオバトルの順で行われました。小論文の試験の教室には時計がなかったので、時計は必ず持っていった方がいいと思います。私は、英語→日本語の順で問題を解きました。過去問を解いてみて感じたこととして、英語の方が小論文的な要素が少ないと思っていたからです。私は小論文が苦手なのでこの作戦は成功したように感じています。そのおかげもあってか、試験時間の90分の内60分くらいで問題を解き終わることができました。残りの時間でしっかりと推敲・見直しをすることができました。

次にビブリオバトルについて書きます。私はビブリオバトルの試験会場に案内されるまでに1時間ほど待ちました。受験番号によっては3時間くらい待つ人もいるので、時間の使い方に気をつけてください。ビブリオバトルは6人1組で行いました。私は受験番号の兼ね合いでトップバッターになってしまい緊張しましたが、スピーチのリハーサルがしっかりとできていたので（後で詳しく記述します）自分の力を十分に発揮することができました。

対策

小論文については高三の6月くらいからゆるく対策していました。1週間に1本小論文を書くくらいのペースです。10月に入ってから本格的に対策をしました。2、3日に1本小論文を書き、加えて英語の長文対策をしました。小論文の題材としては情報系問題を中心にやっていました。ただ、試験を終えてから思うことは、題材を1分野に限定せずに幅広い分野の問題を解く方が良いと思います。

ビブリオバトルの対策は、11月に入ってから行いました。友達にスピーチを聞いてもらったり、質問してもらったりしました。また、私が住んでいる県ではたまたま推薦入試の1週間前にビブリオバトルの県大会が行われていたため、それに参加しました。時期的にもちょうど良い試験のリハーサルになりました。入試の前に学校以外の場所でビブリオバトルを経験しておくことは大切だと思います。

最後に

ビブリオバトルについては、聴き慣れない人も多いと思います。でも大丈夫です。しっかりと対策をすれば、それほど怖いものではありません。受験頑張ってください！

AC 入試

私は、高校一年生でビブリオバトルと出会って以来、好んで行っていました。校内でクラス大会があったり、県での大会があったりと、さまざまな参加機会に恵まれたので、参加できる大会には進んで参加していました。結果として 3 年間連続で全国大会に出場させていただき、全国優秀賞も 2 度受賞させていただきました。

また、ビブリオバトルに触れるとともに、「本」について、そして、(ビブリオバトルなどの発表やコミュニケーションの際に行われる)情報の交換、コミュニケーションなどについての興味がわいてきました。このことから志望大学や学問領域をこの学類に決定しました。

さて、AC 入試はご存じの通り筑波大学でのみ行われている独自の入試形態です。大学の見解に沿ってかみ砕いて説明すると、「自分の興味関心についての研究をしており、主体的で積極的な取り組みを十分に行っており、大学で学ぶにふさわしい能力や意識のある生徒」を対象とした入試です。実績や功績についての記述は他大学にもありますが、当大学はそれに加え、興味関心に基づく継続的な研究」を求めています。はっきりと目に見える形で、その人にとって「大学での学び」がどのように重要で、その学びと高校時代の研究がどのようにリンクしているか、ということを明確に示さないといけないわけです。この部分が他の大学においての AC 入試との大きな違いであると思います。

皆さんご存じの通り、AC 入試には第一次 / 二次選考の二つの試験があります。

一次試験のメインは自己推薦書です。この自己推薦書、実は、A4 の紙なら『様式自由』なおかつ『枚数無制限』というものです。そのため、枠組みや文字数に囚われることなく自由に記述ができます。『私はこれまでこんなことに興味があった!』『こんなことを研究した!』『この研究を大学でさらに深く!』など、筑波大学への愛情を余すことなく表現しましょう。この自己推薦書は、書き過ぎに越したことはないです。熱意がないとそもそも量を書くことが不可能ですし、大学の先生方も大量の自己推薦書を見たら大学への熱意を感じることでしょう。ちなみに筆者はこの自己推薦書は合計して 60 枚ほど書きました。

一次試験に合格すれば、次は二次試験です。二次試験は、面接一本勝負です。受験生一人に対して面接官の先生が三人です。3 対 1 という人数比や面接時間を知って、「こわそう」と思った方もいるかもしれません。私も面接を受ける前はそう感じていました。しかし、いざ面接を終えて見ると、その心配は杞憂でした。

面接官の先生は、私が一次試験で書いた自己推薦書の中から、気になるところやより深く知りたいところを聞いてきます。自分の書いたものについてその分野の専門の先生方と話すことができたのはとても楽しかったです。また、先生方はとても優しく接してくれるので、圧迫面接などありません(と思います)。

AC 入試は最終的に、「自分の興味関心についてどこまで本気で楽しんで追求できるか」が評価の分かれ目だと思います。「研究」や「入試」と緊張しすぎず、「興味あることについて詳しい人とお話できるんだ」のように、少し肩の力を抜いて、楽しんでみるのもいいかもしれません。

この記事が少しでも皆様の参考になれば幸いです。

ぜひ、筑波大学でお会いしましょう!



5. 生活体験記

筑波大学は、茨城県内だけでなく地方から学びにくる学生が多くいます。そのため通学する人もいればひとりする暮らしをする人もいて、生活は様々です。今回、その一部をお届けすべく、何人かの学生に生活体験記を書いてもらいました。

春日学生宿舎

春日宿舎は、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類の授業が開講される春日エリアにあります。春日エリアの中でも、本学側に位置しているので、他学群の授業に行くこともそれほど大変ではないと思います。また、アパートに比べて家賃が格段に安いです。だからと言ってアパートよりとても劣っているということはないと思います。

部屋は、1人で暮らすには十分広いです。しかし、友達を呼ぶとなると少し狭く感じます。また、共用の場所に自分のものを置けないので、キッチン用品やお風呂で使うものは自分の部屋に置くことになります。そのための収納が必要です。

また、ドアが少し薄いのか、廊下の音は聞こえます。部屋同士で音が聞こえることはあまりないと思います。

キッチン、トイレ、洗面台、お風呂は共用です。シャワー室は9分100円で利用できます。共用の場所で出会いがあることが、宿舎の利点のひとつであると思います。今、私はこの文章を友達の部屋で書いていますが、その友達は学群も部活も階も違う人です。お風呂場で仲良くなりました。宿舎に住んでいるのは、学年の違いはあれどみんな筑波大生です。勇気を持って話しかけてみましょう。

キッチンは少し匂いが気になる階もありますが、生ゴミなどのゴミ箱があるので仕方ない気がします。部屋にビンやカン、生ゴミを捨てずに済むので虫の心配が減る点では良いと思います。

あった方が良いと感じたものは、延長コードと小さなワゴンです。コンセントは三箇所ありますが、多くの家電をひとつの部屋に置くことになるので延長コードが必要になります。小さなワゴンは、キッチンに食材や調理器具を運ぶのに使っています。楽に運べるのはもちろん、部屋では料理関係のものをまとめて置いておけるので便利です。

宿舎のデメリットは、部屋が少し窮屈なのと、引越しが前提なのでむやみに荷物を増やせないこと、キッチンやお風呂が共用であることだと思います。しかし、他学群の友達ができたり、部屋の行き来が気軽だったり、一年生には嬉しいメリットもあります。一人暮らし初心者の方々と助け合いながら生活できて、とても良い環境だと思います。



アパート

私の住んでいるアパートは春日三丁目にある広さ 1k8 畳で家賃が月 3.9 万円の物件です。住む地域は、春日キャンパスの人なら本学（大きい方のキャンパス）と春日キャンパスを往復できるエリアになる春日 3 丁目か 4 丁目、天久保の 1 丁目か 2 丁目辺りがいいと思います。アパートの相場は、安いところは 2 万円からとなりますが、あまりに安いと隣人の生活音が聞こえやすい（あるいは聞かれやすい）ことがあるので実際に見てみて決めるようにしましょう。私は楽器を弾く人間なので、予算内ですこしでも壁が厚いところを選びました。内覧の際に業者さんに許可をとって軽く壁をコンコンと叩いてみるのも良いでしょう。また、近くにスーパーやレストランがあるかどうかのチェックも忘れずに。春日 3 丁目はトライアルという激安スーパーが比較的近いのですが、自分は出不精なのでしばらくして行かなくなってしまいました…。不動産屋さんに車で案内されていると案外気づかないものですが自転車はわりと距離が遠く感じられるのでその辺も考慮しましょう。

まず食生活についてですが、実家にいる時はいかに食費を浮かすべく自炊をするか考えていた僕も実際暮らしてみると案外食べなくなりがちです。食が乱れると精神的にも肉体的にもよろしくないなので、なんとか 1 日 3 食、できれば栄養の整った物を食べましょう。

また、地味に悩むのがゴミ出しです。朝起きられる人はなにも問題がありませんがそんな優等生ばかりじゃありません。わたしも恥ずかしいことにその 1 人で起きたらゴミ収集の時間が終わっていたりします。特に燃えるゴミを逃すと本当に悲惨（生ゴミが増える）なのでこればかりは頑張っておきるしかありません。前日出しは基本的にマナー違反なのでしないようにしましょう。

本当ならアパートは人の溜まり場になりやすいのですがこんなご時世ですのではなかなか孤独です。たまーにちょっと友達が来るかなくらいで、一人の時間が多くなるので頑張ってお充実させましょう。コロナ禍以降は気兼ねなく集まれたらいいなと思います。（ご近所さんには十分に配慮してください）

少し悪い点を書いてしまいましたがいい点もあります。まずは何より宿舍よりも部屋の質がいいです。いくら安めの所でも基本的に宿舍よりかは音も漏れないし、キッチンなども共有ではありません。また、アパートのほうが家具を自分で自由に選んで「自分の部屋」にする楽しみをより体験することができます。

生活空間を共有することに耐えられるならば宿舍はある程度悪くない選択肢ですが、宿舍に入居したひとのなかでは「脱獄」と称して早々にアパートに引っ越す人も…。一度暮らしてみて宿舍かアパートか決めるのも悪くないと思います。

自宅通学

皆さんこんにちは。こちらでは、毎日自宅から通学する場合（以下、宅通とします）についてお話しさせていただこうかと思います。茨城県のお隣にある千葉県から通い続けた私の経験を、少しでも参考にしてもらえればうれしいです。

さて、筑波大学で勉強したいと思っている方の中には、やはり一人暮らしにあこがれている方も多いかと思います。大学周辺にはアパートやマンションが立ち並び、飲食店もしっかりと構えていて、学生同士の交流がとても盛んです。そんな中で私が宅通をしようと思ったのにはいくつかわけがあり、在学中にも様々な気づきがありました。

まずは、宅通の実態をお伝えしたいと思います。基本的に、つくばエクスプレスという電車を中心につくば市まで来ることになるかと思います。私の場合、自宅から最寄り駅まで自転車で移動し、地元のローカル線からつくばエクスプレスに乗り換え、つくば駅まで来ていました。そして、駅から授業を受ける大学内のエリアへ向かうこととなります。私たちがよく使う春日エリアは駅から徒歩10分弱でたどり着けますが、一年生はカリキュラム上、他のエリアの授業を受けなくてはならないことも多いため、通学の最後には、駅の駐輪場または春日エリアの駐輪場から、15分程のサイクリングが待っています。

そうして、いくつもの乗り物に乗りつつ時間をかけて通学していました。私の場合、つくばエクスプレスに20～30分程乗車し、8分程で春日エリアまで歩き、10分程自転車に乗るという具合でした。そこに自宅からつくばエクスプレス停車駅までの時間が加算されます。

たしかに、時間も負担も掛かり、一人暮らしと違って完璧な自由はないかもしれませんが、しかし、宅通は一人暮らしをするよりもお金がかからないことが多いです。大学周辺のアパートに一人暮らしをする場合、月ごとに家賃3～5万円ほどに加えて光熱費・雑費がかかりますが、宅通をしていた私の場合、かかったのは月2万円ほどの定期代のみでした。また、賃貸契約は住んでいる期間ずっと続くため、帰省中もお金がかかってしましますが、宅通にそのようなことはありません。2か月ほどある長い夏休み・冬休みとマッチしていました。

また、宅通は活動範囲の自由度が高いです。定期区間は自由に乗り降りできますし、大学の友達と、高校や中学時代の友達の両方と遊ぶこともできます。基本的につくばに住むよりも都内に出入りやすく、休日に遊びに行きやすいという声も聞きました。

もちろん、宿舎のような、他にお金がかからない道も存在しますし、一人暮らしの遅刻のリスクが減る・自由な時間が多いというようなメリットも捨てがたいです。在学中に一人暮らしを始める等も可能ですから、しっかりと考えたうえで自分に合っていそうな暮らし方・通学の仕方を選んでみてください。大学にてみなさんのことをお待ちしております。



Global Village

Global Village、通称グロビ。この宿舎は築3年という綺麗さに加え、春日宿舎に比べて本学に近く、日本では珍しいシェアハウス型の宿舎である。ここでは、居住環境、立地、同居人の3つのトピックについて説明する。

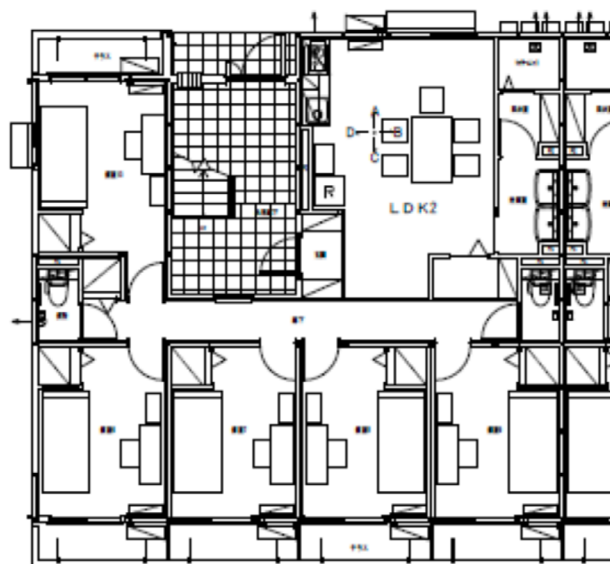
まず居住環境についてだが、非常に良いと言っていい。建てられたのが最近なので部屋の汚れもなく、外見も筑波大一綺麗である。備え付けの家具も充実しており、エアコンや姿見がデフォルトでついているのはここぐらいだ。また、ユニットの共用スペース（テーブルがある場所）には2口のIHヒーター、冷蔵庫、レンジがあるのも嬉しい。玄関には大きな靴棚もある。

次に立地。エリアとしては平砂宿舎と同じだが、その裏にあるため初見では見つけれない秘境の地となっている。場所がわからずに卒業する先輩もいるらしい。春日宿舎より本学に近く、特にカスミ筑波大学店（一人暮らしの学生向けのスーパー。卵は1パック100円）がすぐそばにあるのが有り難い。1年次は本学での授業が多いのでとても便利である反面、同じ春日の学類の人が少ないのが少々難点か。

最後のトピックは同居人についてだ。グロビは4～5人で1ユニットが構成されており、その中の1～2人は必ず留学生である。しかし会話は全て日本語で行われる。なぜか。彼らはシェアハウスはコミュニケーションが重要な環境だということを想定して日本語を練習してくるのである。留学生の割合も想定より少ないのが現状で、もはやJapanese Villageである。留学生に院生が多い関係もあって、各々の学年も生活リズムもバラバラである。そのためユニットメンバーの関わりは少なく、食事当番を決めて一緒にご飯を食べるような光景は幻想である。正直学年を合わせてくれた方が絶対に面白い。

終わりになるが、グロビに来ない方がいい人を紹介しておく。それは他人の尻拭いをするのが嫌な人、仕切り屋、そしてコミュ障である。理由はお察しの通り。それ以外にも、ここに書けないようなことはTwitter #グロビの闇 で検索検索ウ！ ぜひ抽選を勝ち抜いてグロビの春日率を上げるのに貢献してほしい。

【Global Village の間取り】



6. 新歓体験記

今年度はオンライン授業のため、例年とは異なる新歓が行われました。そんな新歓を体験した一年生の声を掲載します。

klis は毎回だいたい 20 人くらいが参加していました。自宅待機の私たちにとって、新歓は同級生と交流する貴重な機会となりました。新歓では 4～5 人の新入生と 2～3 人の 2 年生で割り振られ、みんなで楽しくお話しをします。例えば先輩方が筑波での生活や授業の話をしてくれたり、新入生同士で出身地の方言とか特色などの話をしたりして盛り上がりました。この新歓のおかげで友達ができました！つくばへ行ってみんなに会うのが楽しみです。

(klis M さん)

今年は新型コロナウイルスの影響で、対面での新歓を行うことができませんでした。しかし、先輩方が工夫に工夫を重ねてくださり、zoom や remo といったサービスで実際の新歓に近い形式でオンライン新歓をして下さいました。思い描いた大学生活とは違っても、このようにオンライン授業と大量の課題の中に憩いの場を作ってくださった先輩方には感謝の思いでいっぱいです。

(mast C くん)

私は、新歓ライブは毎回閲覧し、新歓オンライン交流会には 3 回ほど参加しました。新歓ライブでは新入生の質問への回答や、履修登録の仕方の説明などを YouTube でライブ配信してくださっていました。履修科目の選び方が全く分からず困っていたので、本当に救われていました。交流会では先輩方がたくさんお話をしてくださり、またなかなか友達を作りにくい環境の中、同じ境遇の新入生とも話せたので、とても楽しかったです！

(mast O さん)

豆知識：ABC モジュールって？

大学は、単位を修得することで進級・卒業ができます。筑波大学の場合、授業は 1 コマ 75 分で、夏休みを挟み、前半が春学期、後半が秋学期となっています。さらにこれらの学期はそれぞれ ABC の 3 つのモジュールに分かれています。1 つのモジュールは 5 週間です。授業には AB もしくは BC モジュールを通して 10 回行われるものと、ABC モジュールを通して 15 回行われるものがあります。基本的には週 1 コマ × 10 回で 1.0 単位、週 2 コマ × 15 回で 3 単位を修得できます。klis や mast の授業の多くは AB モジュールで終了しますが、C モジュールまで行われる授業もあります（他学類に多いです）。C モジュールの期間は授業以外のことに活用できる時間が増えます。

7. 用語集

あ行

●天久保 [あまくぼ]

地名。筑波生が多く生活している。

●アパ民 [あぱみん]

アパートに住んでいる人。詳しくは生活体験記で！

●1学・2学・3学

[いちがく・にがく・さんがく]

それぞれ第1エリア、第2エリア、第3エリアの通称。学群・学類再編前のナンバー学群の名残。

●一の矢 [いちのや]

地名。または一の矢宿舎。春日の人にはあまり馴染みがない。団地のように広い。

●イノベーション棟 [いのべーしょんとう]

春日エリアで最も高く、きれいな建物と言われている。しかし、医療関係の施設であるため、春日民にはあまり関係がない…。

●エクストリーム移動

[えくすとリーむいどう]

春と本学の間を15分（休み時間）で移動すること。かなり厳しい。

●追越 [おいこし]

追越宿舎のこと。klis、mastの学生が入居することもある。

か行

●学内バス [がくないばす]

正式名称は学内循環バス。ループ（ラ行参照）を走る。筑波大学生は年間9,500円で乗り放題。時間通りに来ないことが多い。

●春日 [かすが]

1. つくば市内の地名。
2. 筑波大学筑波キャンパス春日エリアのこと。
3. klis、mastの総称。

●春日食堂 [かすがしょくどう]

春日エリア内にある食堂。通称かすしょく。味は日進月歩。ぜひお試しあれ。

●クラ代 [くらだい]

クラス代表者会議。春日地区では、klis・mastが合同で春日地区クラス代表者会議として、春日エリア内のあれこれ（設備や学習環境など）を改善するため日々活動している。

さ行

●実習室 [じっしゅうしつ]

機室、サテ室とも言う。パソコンがたくさんおいてある教室。課題をやったり、娯楽のためにパソコンを使いにと、その使用目的はさまざま。

●宿舎民 [しゅくしゃみん]

宿舎に住んでいる人。詳しくは生活体験記で！

●シンデレラ階段 [しんでれらかいだん]

1 階と 2 階をつなぐ大きな階段。その形状からシンデレラ階段と名がついた。待ち合わせによく使われる。

●スポーツデー [すぽーつでー]

年 2 回（春学期、秋学期にそれぞれ 1 回ずつ）行われる。スポーツデー委員会と言う実行委員会が存在する。毎年様々なスポーツ種目を通じて、学校全体で盛り上がる。

●全代会 [ぜんだいかい]

全学学類・専門学群代表者会議の略称。通称 Z。高校の生徒会のレベルアップバージョンのようなもの。大学全体の学生のために動いている。

●全学計算機 [ぜんがくけいさんき]

筑波大の学生が使えるパソコンのこと。計算機＝パソコンである。結構ハイスペックで色々なソフトも入っているため、授業以外で活用することも。

●ゼミ [ぜみ]

卒業研究を行うために行われる、少人数での活動。各学類の教員の研究室に入り、卒業研究を行わなければ卒業することができない。研究室には 3 年次の 11 月に配属される。その内容は研究室によって様々。詳しく知りたい人は、各教員の研究内容について見てください。

<https://klis.tsukuba.ac.jp/faculty.html>(klis)
<https://www.mast.tsukuba.ac.jp/faculty/index.html>(mast) です。

●雙峰祭 [そうほうさい]

11 月ごろに 3 日にわたって行われる、筑波大学の学園祭。学実委という実行委員会が存在する。1 日では回りきれないほど規模が大きい。

●卒業式 [そつぎょうしき]

大学最後の晴れ舞台。はかまを着る学生も多く見られ、会場が賑わう。

た行

●宅通 [たくつう]

自宅から大学へ通ってくる人の通称。詳しくは生活体験記で！

●Twitter[ついったー]

春日民の大事な情報ツール。コロナ状況下において非常に役に立った。春日はツイッター普及率がすごい。先生方もやっておられる。また、知識情報・図書館学類の非公式のアカウントもあるので、ぜひご参照ください。

●つくばっく [----]

帰省先からつくばに戻ってくる人。

●TX[ていーえっくす]

つくばエクスプレスの通称。秋葉原まで最速 45 分。宅通で利用する人もいる。

●図情図書館 [とじょうとしょかん]

図書館情報学図書館の通称。同じく筑波大学として、中央図書館、医学図書館、体芸図書館などが存在する。勉強したり昼寝したり使い方はそれぞれ。

な行

●夏休み [なつやすみ]

2ヶ月もある。やりたいこと、好きなことを思う存分できる。

●入学式 [にゅうがくしき]

大学会館で2回に分けて行われる。プロの歌手を招いて歌うメッセージソング "IMAGINE THE FUTURE" は必聴。

は行

●春休み [はるやすみ]

冬休みが短い代わりに、春休みは長い。2ヶ月ある。

●平砂 [ひらすな]

平砂宿舎の通称。グランドスラムと呼ばれる部屋はいろんな意味で有名。

●ペデ [ペデ]

ペDESTリアンデッキの略称。筑波大学の中を縦にまっすぐ通る。自転車と歩行者が通る。本学への行き来をするときによく使う。

●ほけかん [----]

保健管理センターの略称。

料金など詳しいことは以下をチェック

<https://www.hokekan.tsukuba.ac.jp>

●本学 [ほんがく]

第1、2、3エリア等の通称。春日から自転車で15分。1年生はここで授業が多いので、かなりの時間を過ごす。

ま行

●マジック [まじっく]

行事等で苦労を共にした男女がカップルになること。「やど祭マジック」、「クラ代マジック」、「雙峰祭マジック」などがある。詳しくは入ってから先輩に聞くと良い。

や行

●やどかり祭 [やどかりさい]

入学して初めての大きな行事。宿舍祭とも言う。主に1年生を中心に出店したり御輿を作ったりする。「ゆかコン」と言う、ゆかたとパフォーマンスのミスコンが開催される。

ら行

●ラーニングコモンズ

[らーにんぐこもんず]

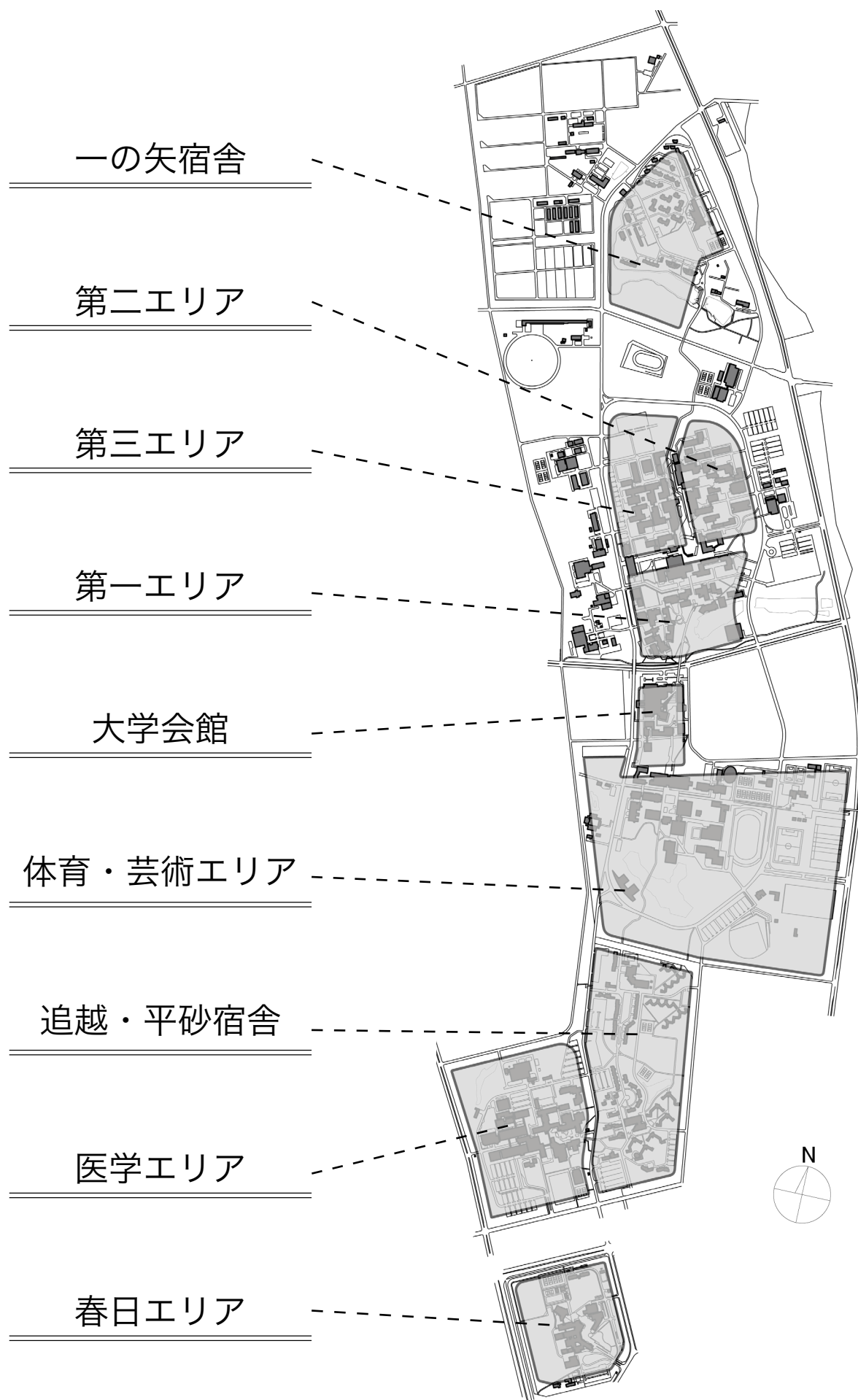
通称 LC。図情図書館の中に存在する。院や学類の先輩方（チューターと呼ばれる）が、課題の相談などにのってくれる。パソコンなどもおいてある。

●ラウンジ [らうんじ]

春日食堂横にある 24 時間自由に使えるスペース。パンやカップラーメン等の販売機があり、学生の強い味方。

●ループ [るーぷ]

学内バスが通る道路のこと。決して舗装は綺麗ではないが、ペデは坂道が多いため、自転車だとこちらの道を好んで通る人がたくさんいる。



体育館

書籍部

春日講堂

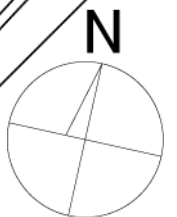
春日宿舍

図書館情報学図書館

ラウンジ

情報メディアユニオン

春日食堂



かすがらいふ 2020 年度 夏号

(2020 年 8 月発行)

発行者

筑波大学 情報学群 情報メディア創成学類長
知識情報・図書館学類長

編集

(省略)

特別寄稿

河辺 徹 先生 (情報メディア創成学類長)
歳森 敦 先生 (知識情報・図書館学類長)

寄稿及び原稿・表紙・挿絵協力

情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類の皆様

Special Thanks

情報メディア創成学類の教職員の皆様
知識情報・図書館学類の教職員の皆様
図書館情報エリア支援室の皆様
春日地区クラス代表者会議
2019 年度かすがらいふ編集委員長
過去のかすがらいふ編集委員の皆様
その他、ご協力いただいた全ての皆様